



東面外観：内部の木を表出させる外観デザイン



図書室閲覧：ダイナミックな燃エンウッドの架構と「知識の積層」をイメージした県産杉材の壁と調和し、開放的で温かみの読書空間を創出している



学生ホール：木のぼらつきを活かし「樹木の生命力」を表現した杉板ランダム天井。広場からのアクセスの良い場で、学生の活発なコミュニケーションを促進出来るよう計画。

## 多様な「出会い」を生み キャンパスとつながる木の学習空間 —横浜商科大学高等学校実習棟—

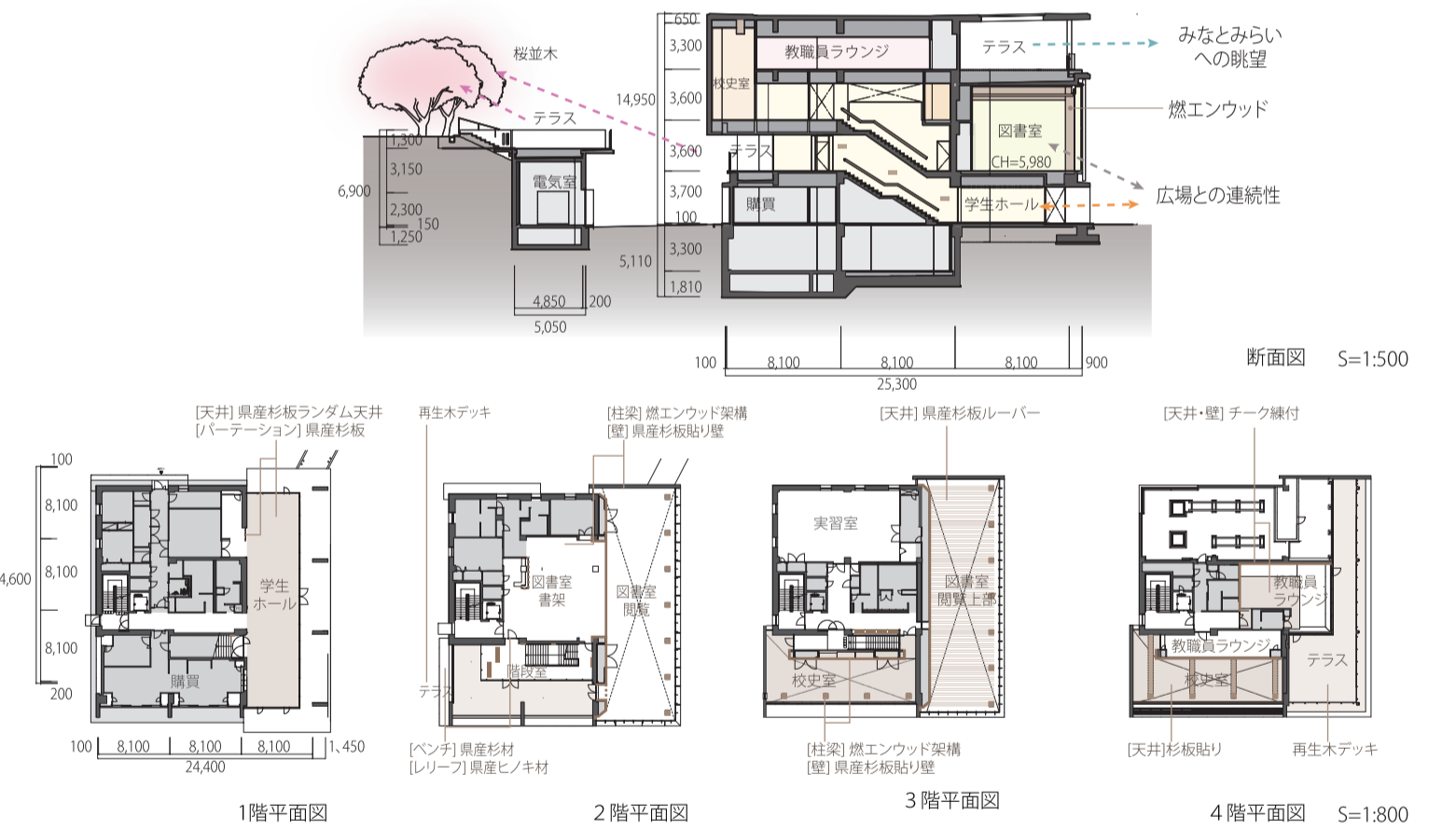
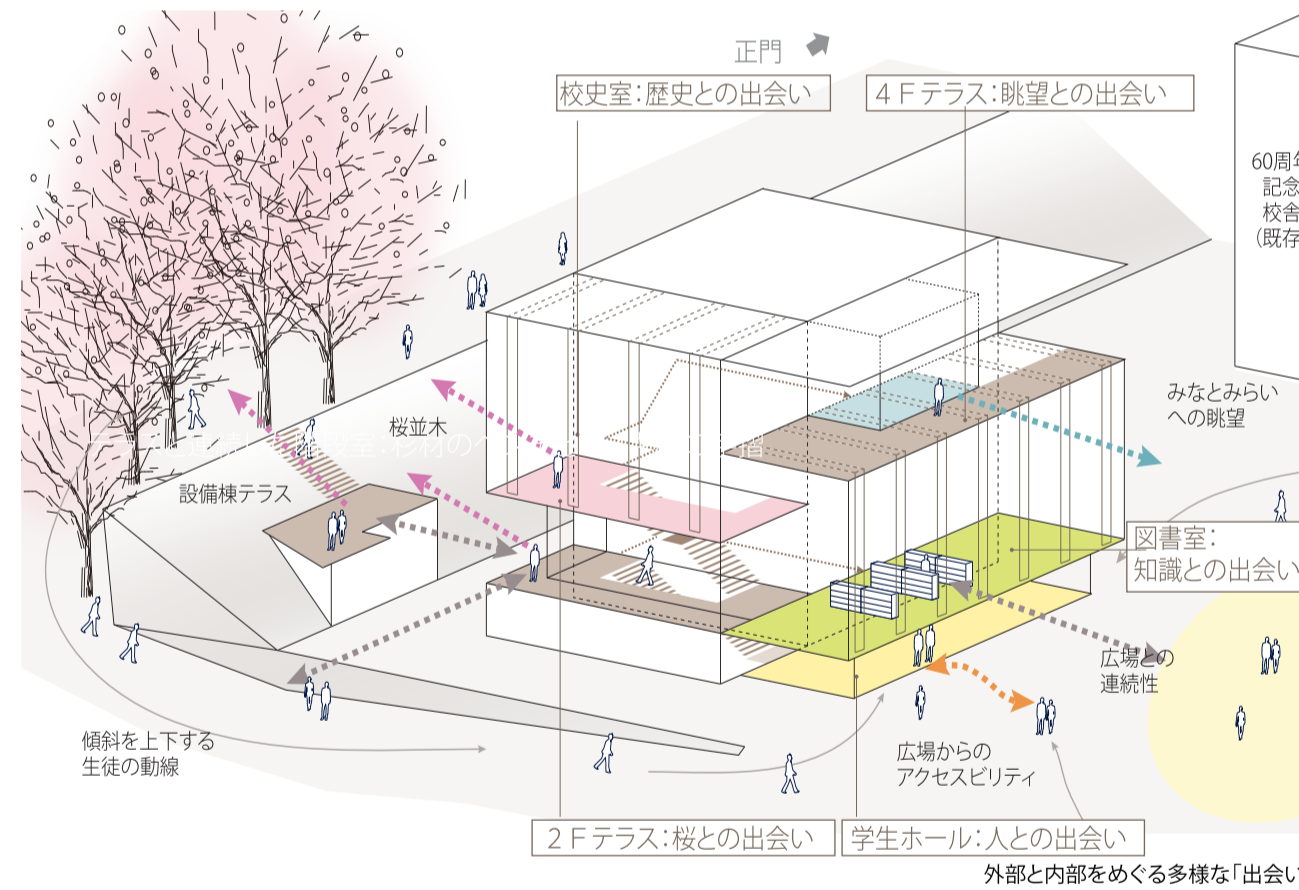
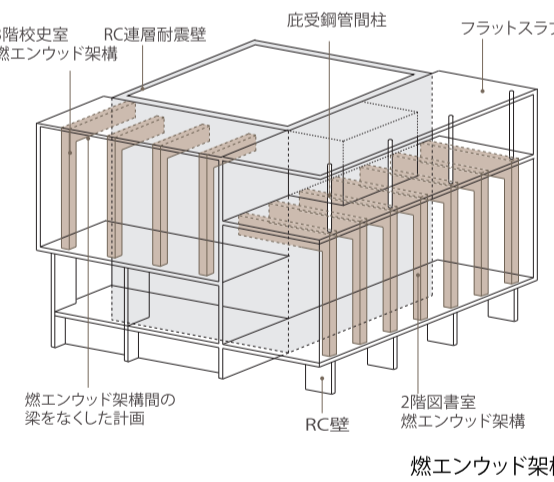
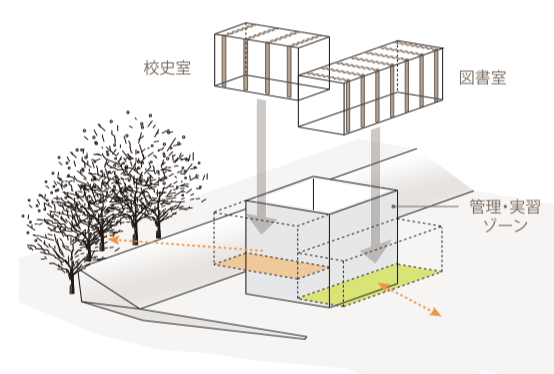
小高い丘の上にあるキャンパスの図書・実習棟の建替計画。計画建物は、キャンパスの中心に位置しており、多面的・立体的に外部に開いた木の空間を創ることで、生徒が人・知識・環境と出会い【木の温もりあふれる空間】で活き活きと学ぶことができる校舎を目指した。

### ■木と人が「出会う」学習空間

学校建築では日本初となる燃エンウッド®（耐火建築物で使用可能な木造の柱梁）を図書室・校史室の2層吹抜空間に採用し、木架構が林立するダイナミックで開放感のある学習空間とした。さらに壁・天井をはじめ、ベンチ・カウンター・手摺・レリーフに地元神奈川県産材の杉・檜を活用し、建物をめぐる中で木の香り、美しい木目、触感を感じられるよう計画している。

### ■多様な場と「出会う」シーケンスの創出

高低差のあるキャンパスに呼応するように、立体的に2つの木吹抜空間を配置しその上下のスキマに、広場やキャンパス各所との見通しや、桜並木・みなとみらいへの眺望など、周辺環境とつながる開放的な賑わいの場をつかった。生徒がシーケンシャルに多様な場を体験することで、学習活動に新たな契機をもたらすよう計画した。



高低差のあるキャンパスに呼応するように、立体的に木吹抜空間を配置



桜並木より望む



みなとみらいへの眺望が開ける4階テラス



階段室：ヒノキの年輪を活かしたレリーフ



桜の見える2階テラス



テラスと連続した階段室：杉材のベンチとヒノキの手摺



3階階下：杉材のベンチ



桜の見える校史室



4階教職員ラウンジ：みなとみらいを望む